

図書館長からのメッセージ

愛知教育大学附属図書館長 西宮秀紀

附属図書館のリニューアルオープンに先立ちまして、図書館長としてご挨拶をさせていただきます。まずは、後藤ひとみ学長のご理解のもと、関係教職員・学生代表の各位、また設計・施工に携わっていただいた全ての方々に、心より感謝申し上げます。

これまでの図書館は、全体が静寂に包まれ読書する場所というイメージでした。しかし、昨今の図書館はそのイメージを大きく変えています。今回のリニューアルに対応して、三階フロアは従来のイメージである「静」の区域のままですが、それに対して二階フロアを「動」の区域とした点が、旧図書館と大きく異なる点です。

二階フロアの最大の目玉はグループ学修エリアで、“active learning”を具体化した部分です。“active learning”とは能動型学習と呼ばれているもので、多文化共生やグローバル化の中で、これまでの学習方法の反省の上にたつ学習方法です。勿論、その裏側には多くの知識や情報が要求されますし、困ったときには先生や先輩、司書の方々の力を借りる必要も出てくるでしょう。学生達自身が主体となって、どのように活用するか楽しみです。

玄関（二階）を入れて右手には、AUE インフォメーションギャラリーがあります。このコーナーを見れば、最新の愛知教育大学の姿（本学の特色・教育・研究・国際協定校・地域連携・歴史に関する最新情報）について、知ることができます。

次に、同じく二階フロアのキッズライブラリーです。ここは絵本や紙芝居などの子供用図書を集めた部屋ですが、奥には読み聞かせを実際に体験できる、子供たち用の半円階段座席もあります。

さて、三階フロアは「静」の区域ですが、そこも変わりました。開架図書の回りに自習エリアが設けられ、サイレントルームや研究室がしつらえられており、従来のように一人静かに読書や研究に沈潜することができます。さらに、ガラス越しに本学の誇るチェンバレン文庫の歴史ある書棚を眺めて進むと、大学史資料展示室があります。ここには師範学校以来の本学の歴史やそれにまつわる品々、またこの井ヶ谷丘陵に、本学が移転したおりに出土した陶器など文化財の実物などが展示されており、ミニ博物館を体験できます。

勿論、一階の書庫には、電子化されていない膨大な研究論文や和書・洋書などが、活用してくれる利用者を待っています。

これまで不十分であった、男女共同参画のための設備や、身障者の方々へも配慮した設備も取り入れました。

図書館内のスペースの多くは、本学名誉教授の先生や卒業生、それに地域住民の方々にも利用していただけます。どうか、最新型の図書館を体験し、大いに活用してください。皆様の来館をお待ちしております。